

ガージャール朝期ペルシア語普遍史書研究序説

大塚 修（東京大学大学院総合文化研究科・准教授）

I. はじめに

本稿は、公益財団法人 JFE21 世紀財団 2019 年度アジア歴史研究助成を受けて実施した研究課題「ガージャール朝時代イランにおける普遍史の変貌とイラン人意識」¹の研究成果の一部である。ここでは、この研究課題を遂行するために行った、ガージャール朝（1796–1925）時代イランで編纂されたペルシア語普遍史書群に関する史料調査の成果を披露したい²。

これまでに筆者は、伝統的におもにイスラーム教徒の手で編纂されてきた普遍史書と呼ばれる歴史書の一類型が、歴史的にどのように発展してきたのか、また、そこにどのようなイスラーム教徒の世界認識が反映されているのかという問題についての研究を進めてきた。普遍史書というのは、神の天地創造に始まる一神教的な世界認識に裏打ちされた、人類の歴史を解き明かした文献で、アラビア語、ペルシア語、テュルク語など様々な言語で編纂され、20 世紀初頭に至るまで、広くイスラーム教徒に共有されてきたものである。筆者は、『普遍史の変貌：ペルシア語文化圏における形成と展開』（名古屋大学出版会、2017 年）（大塚 2017）において、7 世紀にイスラーム教が誕生して以来の普遍史書の発展の過程について、主にペルシア語文化圏を対象として、15 世紀半ばに至るまでの見通しを提示した。しかし、そこで分析の対象とすることができた普遍史書は、本稿で扱うペルシア語のものに限ってみれば、ごく一部のものに過ぎなかった³。ペルシア語普遍史書は、その後、西アジアだけではなく、中央アジアやインドでも盛んに編纂され、現在それらの手稿本は、世界各地の図書館に所蔵されている。ただし多くの場合、普遍史書の史料的価値は、著者と同時代の記述の部分に見出され、宗教的世界認識が色濃く反映されている天地創造に始まる全体の構成については、史料的価値は認

¹ 本研究課題の概要については、2020 年 11 月 21 日に ICU アジア文化研究所・JFE21 世紀財団共催シンポジウム「いま問われるアジア共生の道：アジア歴史研究の視点から」で報告を行った。

² 本稿の内容は、2023 年 10 月 29 日に日本オリエント学会第 65 回年次大会（於大阪大学）で行った研究報告「ガージャール朝ペルシア語普遍史書研究序説」の一部である。

³ 網羅的なペルシア語文献目録（Bregel 1972）では、合計 128 人の普遍史書の著者が紹介されているが、そのうち 15 世紀半ばまでの著者は 17 人だけである（大塚 2017: 357）。

められてこなかった。筆者の関心は、史料価値が認められてこなかった部分も含む作品としての普遍史書全体にあるが、近年、構成そのものを分析対象とする研究も増えてきており、サファヴィー朝（1501–1736）やムガル朝（1526–1858）で編纂された普遍史書について、注目すべき研究が続々と刊行されている（真下 2011; Quinn 2021; Bockholt 2022）。一方で、本稿が対象とするガージャール朝時代のペルシア語普遍史書については、その内容すら学界で共有されていないものも多い。

例えば、アルボルズ P. Alburz による、11 世紀から 19 世紀初頭に至るまでの時代を対象とする、最新の大部なペルシア語歴史叙述研究で紹介されている普遍史書は、刊行されているものに限られ（後述する『歴史の廃棄 *Nāsikh al-Tawārīkh*』、『ナーシルの整えられた歴史 *Tārīkh-i Muntazam-i Nāṣirī*』、『ムザッファルの選史 *Muntakhab al-Tawārīkh-i Muẓaffarī*』）、未刊行のものに関する言及はない（Alburz 1393kh: 915–1057）。それは、『イラン百科事典 *Encyclopædia Iranica*』の「歴史叙述」の記事においても同様である。そこでは、ガージャール朝宮廷の歴史叙述を、①1857 年まで（王朝の征服活動に関する年代記が編纂された時代）、②1857–1906 年（年代記の形式を維持しつつも、西欧の暦の影響を受け始めた時代、ほとんどが印刷本）、③1906–1920 年（立憲革命以降の時代）の三つの時代に大まかに区分し、それぞれの作品について解説しているが、やはり未刊行のものは取りあげられていない（Amanat 2004）⁴。例外的に、ガディミー・ゲイダーリー ‘A. Qadīmī Qaydārī による最新のガージャール朝期歴史叙述研究の中で未刊行の普遍史書の一部が紹介されているが、それらは手稿本目録の情報に依拠したもので、実際にその内容を検討したものではない（例えば、Qadīmī Qaydārī 1393kh: 46）。

未刊行の普遍史書に対する無関心は、豊富な研究蓄積のあるペルシア語文学史研究の分野においても同様で、それ以前の時代には多くの普遍史書が取り上げられているにもかかわらず、ガージャール朝期の作品が議論の対象とされることはほとんどない（例えば、Browne 1959; 黒柳 2022）。最新のペルシア語文学史の概説において、ようやくメルヴィル Ch. Melville が、後述する『歴史の装飾 *Zīnat al-Tawārīkh*』と『歴史の太陽 *Shams al-Tawārīkh*』を紹介したが（Melville 2012: 307–309）、その中身に関する詳細な検討は依然として行われていない。

⁴ 日本では、これ以前に、岡崎正孝によるガージャール朝時代のペルシア語史料解題が刊行されているが、それも同様である（岡崎 1982: 74–81）。

ガージャール朝時代は、守川知子が明快に整理しているように、伝統的な世界認識に基づいた歴史叙述が、西欧の学術的影響を受けながら、普遍史から脱皮し、国民国家としてのイランの歴史へと姿を変えていく重要な転換期にあたる（守川 2010）。イラン・ナショナリズム研究の文脈においては、当然、ガージャール朝時代に編纂されたペルシア語史書が分析の対象とされるが、それは刊行された新しい形の歴史書が主で、未刊行の伝統的な普遍史書に言及する研究者は少なく、言及していたとしても、やはりその中身に関する詳細な検討は行われていない（例えば、Tavakoli-Targhi 2009: 9）。このように歴史叙述が大きく変貌を遂げていったガージャール朝期イランにおいて、伝統的な普遍史叙述が具体的にどのように変貌を遂げ、消滅していったのかについて検討を深めていくためには、これまで注目されてこなかった、未刊行のペルシア語普遍史書の分析は必須の作業と言えるだろう。さらに、本研究は、イラン・ナショナリズム研究の文脈だけではなく、ガージャール朝の系譜意識や正統性に関する研究（Kondo 2019; 近藤 2023）の文脈においても一定の意味を持つものになると考えている。

II. 手法

以上の問題関心から、本稿では、その基礎的作業として、ガージャール朝時代に編纂されたペルシア語普遍史書に関する筆者のこれまでの史料調査の成果を、現存する手稿本などのデータを付した上で史料目録の形で提示することにしたい。

本稿で紹介するペルシア語普遍史書は、ブレーゲル Yu. E. Bregel がロシア語で編纂した網羅的なペルシア語文献目録（Bregel 1972）のペルシア語訳増補版（Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh）に列挙されているものを中心として、それらの手稿本の現物と目録に記載されている情報を可能な限り参照した上で、その史料解題を作成した。

以下、そのペルシア語普遍史書の史料解題を、第2代君主ファトフアリー・シャー（在位 1797–1834）、第3代君主ムハンマド・シャー（在位 1834–48）、第4代君主ナーシルッディーン・シャー（在位 1848–96）、第5代君主ムザッファルッディーン・シャー（在位 1896–1907）、という形でそれぞれのガージャール朝君主の治世ごとに提示していきたい。

III. 第2代君主ファトフアリー・シャーの治世：1797–1834年

1. ムッラー・ムハンマド・シャリーフ『サナンダジュの歴史精髄』（1800/1年）

著者ムッラー・ムハンマド・シャリーフ Mullā Muḥammad Sharīf (1739/40 生) は、クルディスタン地方の町アルダラーンで代々^{カージェー}法官職を務めてきた一族の出で、自らも^{カージェー}法官職を務めていた。彼の父であるムッラー・ムスタファー Mullā Muṣṭafā (1749/50 没) は、1160/1747/8年に「イスラームの長老」^{シャイフルイスラーム}の尊号を得ている。ムッラー・ムハンマド・シャリーフが1215/1800/1年にアルダラーン^{カージェー}知事のフスラウ・ハーン Khusraw Khān の命を受けて完成させたペルシア語普遍史書が『サナンダジュの歴史精髄 *Zubdat al-Tawārīkh-i Sanandajī*』である (Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh: 662–663; Tawakkulī 1387kh)。

『サナンダジュの歴史精髄』は全12章からなるペルシア語普遍史書である。その章構成を、1859年に書写された現存する唯一の手稿本ケンブリッジ本 (Cambridge University Library, Ms. G18(9)) の葉数で示すと次の通りである。

「序文」(fols. 1b–6b)、第1章 faṣl 「預言者と使徒」(fols. 6b–9a)、第2章「カヤーン朝」(fols. 9a–9b)、第3章「アシュカーン朝」(fols. 9b–11a)、第4章「サーサーン朝」(fols. 11a–12b)、第5章「ムハンマド」(fols. 13a–22a)、第6章「ムハンマドの奇跡」(fols. 22a–34b)、第7章「ムハンマドの美德」(fols. 34b–59a)、第8章「預言者に遺された者たち」(fols. 59a–■■)、第9章「■■」(12人のイマーム、ウマイヤ朝、アッバース朝、サッファール朝、サーマーン朝、ガズナ朝、ブワイフ朝、イスマエール派、セルジューク朝、ホラズムシャー朝、キルマーン・カラヒタイ朝、ムザッファール朝、アターベク諸王朝、グル朝、シースターンの諸王⁵、クルト朝、テュルク人の諸王⁶、モンゴル人の諸王、イルハーン朝、ティムール朝)(fols. ■■–118a)⁷、第10章「サファヴィー朝」(fols. 118a–184b)、第11章「クルド人の系譜とアルダラーンの知事と将軍の系譜」(fols. 184b–239a)、第12章「ガージャール朝」(fols.

⁵ ここで列挙されている他の諸王朝の多くについては、節番号がふられていないが、この王朝に関しては、「第11節 tāyifa」と節番号がふられている (fol. 99b)。

⁶ ここで列挙されている他の諸王朝の多くについては、節番号がふられていないが、この王朝に関しては、「第17節 tāyifa」と節番号がふられている (fol. 106a)。第11節「シースターンの諸王」の二つ後の王朝であるにもかかわらず、数字が飛んでいることから、何らかの混乱が生じているものと考えられる。

⁷ 第8章と第9章の間の切れ目については、入手した手稿本の画像からは確認することができず、不明な情報を、■■と暫定的に記した。また、葉の順番の混乱も見られる。

239b–246a)、「跋文」(fols. 246a–251b)

第 11 章のクルド人やクルディスターンの歴史に関する情報については史料価値が見出され、この部分の部分校訂 (Mullā Muḥammad Sharīf Qāḍī, *Zubdat al-Tawārīkh-i Sanandajī dar Kurdistān*, ed. M. Tawakkulī, Tehran: Intishārāt-i Tawakkulī, 1387kh) がケンブリッジ本 (Cambridge University Library, Ms. G18(9)) を底本として出版されている。

● 『サナンダジュの歴史精髄』の現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅 (梓幅)	行数	典拠
1	Cambridge, Cambridge University Library, Ms. G18(9)	1275 Ramadān 27 / 1859 年 4 月 30 日	251	21.4x14 (16.9x8.6)	12	Nickolson 1932: 103–104

2. ムハンマドリダー・タブリーズィー『歴史の装飾』(1806/7 年頃)

著者ミールザー・ムハンマドリダー・タブリーズィー Mīrzā Muḥammad-riḍā Tabrīzī (1745–1808/9) は、アゼルバイジャンの名家出身で、アフシャール朝 (1736–96) 初代君主ナーディール・シャー (在位 1736–47) の財務官を務めたミールザー・ムハンマドシヤフィーウ Mīrzā Muḥammad-shafī‘^{ムスタウフィー} の子として生まれた。父の死後、財務官としてザンド朝 (1751–94) 初代君主カリーム・ハーン・ザンド (在位 1751–79) の宮廷に出仕し、その後ガージャール朝初代君主アーガー・ムハンマド (在位 1796–97) の宮廷に移った。第 2 代君主ファトフアリー・シャー (在位 1797–1834) の治世には書記官長も務めた。この人物が、アブドルカリーム・ブン・アリーリダー・シャリーフ・イシュティハールディー ‘Abd al-Karīm b. ‘Alī-riḍā al-Sharīf al-Ishtihārdī の手を借りて、1221 / 1806/7 年頃、ファトフアリー・シャーの命令で編纂したペルシア語普遍史書が『歴史の装飾 *Zīnat al-Tawārīkh*』である (Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh: 665–667)。

『歴史の装飾』は、2 巻構成で、その章構成は次の通りである。

「序文」、序 āghāz 「天地創造」、第 1 巻 pīrāya 第 1 章 wajh 第 1 節 gūna 「ムハンマド以前の諸預言者」、第 2 節 「ムハンマド以前の諸賢者」、第 2 章第 1 節 「ムハンマドと 12 人のイマーム」、第 2 節 「ムハンマドの親族と教友」、第 2 巻第 1 章第 1 節 「古代ペルシアの諸王」、第 1 章第 2 節 「ムハンマド没後の諸王^{スルターン} (3 人のカリフ、ウマイヤ朝、アッバース朝、ターヒル朝、サッフアール朝、サーマーン朝、ズィヤール朝、ブワイフ朝、ガズナ朝、グール朝、デリー・スルターン朝、イスマリーイー派、セルジューク朝、スィースターンの諸王、キルマーンの諸王、モスル・アターベク朝、アゼルバイジャン・アターベク朝、ファールス・アターベク朝、ホラズムシャー朝、キルマーン・カラヒタイ朝、チンギス朝、チョパン朝、ジャラーイル

朝、ムザッファル朝、ティムール朝、カラコユンル朝、アクコユンル朝、サファヴィー朝、アフシャール朝、ザンド朝、オスマン朝、ムガル朝、オグズ史、ウズベク諸王朝)」、第2章第2節「ガージャール朝」、跋文 *anjām*

3点のロンドン本 (British Library, Ms. Add. 23514; Add. 23515; Add. 23528 本) は一揃いで、1810年頃にブーシェフルに住んでいたブルース Wm. Bruce のために作成されたものだが、Ms. Add. 23514 は序文、序、第1巻を、Ms. Add. 23515 は第2巻第1章を、Ms. Add. 23528 は第2巻第2章第2節を含んでいる。第2章第1節が本文中には存在しないが、サファヴィー朝史からが分冊になった手稿本が残っていることから、サファヴィー朝以降が第2章第1節という扱いになっていた可能性がある。

第2巻第2章第2節のガージャール史については史料価値が見出され、この部分の部分校訂 (Mīrzā Muḥammad Riḍā Tabrizī, *Zīnat al-Tawārīkh*, ed. ‘A. Rajabī, Tehran: Intishārāt-i Ārmān-pazhūhān, 1400kh) がテヘラン本 (Golestān Palace Library, Ms. 597) を底本として出版されている。

●『歴史の装飾』の現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅 (梓幅)	行数	典拠
1	Tehran, Golestān Palace Library, Ms. 597 (vol. 2)	1218/1803/4	1367(p)	43.5x28	24	Ātābāy 2536sh: 230–232
2	London, British Library, Ms. Or. 3202 (vol. 1)	1220/1805/6	293	30x20.5 (22.5x13.5)	25	Rieu 1977: 27
3	Tehran, Majles Library, Ms. 4034 (vol. 1)	1225 Rajab/1810	236	34x22 (26x14.5)	25	Afshār, Dānīshpazhūh & Munzawī 1345kh: 39–40
4	London, British Library, Ms. Add. 23514 (vol. 1)	1810 頃	598	34x19 (25x19.5)	17	Rieu 1879: 135–136
5	London, British Library, Ms. Add. 23515 (vol. 2/1)	1810 頃	799	33x19 (23x12.5)	17	Rieu 1879: 135–136
6	London, British Library, Ms. Add. 23528 (vol. 2/2/2)	1812	189	34x20 (24.2x13.3)	17	Rieu 1879: 135–136
7	London, British Library, Ms. Add. 27238 (vol. 2/1)	1225 Muḥarram / 1810	288	30x20.5 (22x13)	25	Rieu 1879: 136
8	London, British Library, Ms. Add. 23527 (vol. 2/2/2)	1227 Dhū al-Ḥijja 1 / 1812 年 12 月 6 日	183	29.5x19.5 (22x11.5)	19	Rieu 1879: 136
9	Cambridge, Cambridge University Library, Ms. G. 16 (14) (vol. 2)	1227/1812	453	33.7x22 (28.3x25.9)	27	Nickolson 1932: 101–102
10	Tehran, Majles Library, Ms. 258	1228/1813	477	32x19	21	Naqībzāda, I’tīṣāmī, Ibn Yūsuf Shīrāzī & Ḥā’irī 1390kh: 1120
11	Tehran, Golestān Palace Library, Ms. 2351 (vol. 1)	1228/1813	590(p)	43.4x27	21	Ātābāy 2536sh: 228–229
12	Tehran, Golestān Palace Library, Ms. 1996 (vol. 1)	1229/1813/4	718(p)	32.5x21	21	Ātābāy 2536sh: 222–224
13	Tehran, Majles Library, Ms. 9060 (vol. 1)	1237/1821/2	412	29.8x20.2 (21.5x13)	19	Ḥakīm 1390kh: 684–686
14	Qom, Markaz-i Iḥyā Library, Ms. 475 (vol. 2)	1243 Jumādā II / 1827/8	399	29x19	18	Ḥusaynī Ishkiwarī 1380kh: 83–84
15	Mashhad Āstān-e Qods Library, Ms. 34982 (vol. 2/2/1)	1260 Safar 27 / 1844 年 2 月 18 日	213	25x14.5	15	Dirāyatī 1391kh: 815

16	Tehran, Mīrzā ‘Abd al-‘Azīm Khān Qarīb Gurgānī Library, Ms. 114	1260/1844/5	-	-	-	Dānishpazhūh & Afshār 1346kh: 630
17	Tehran, Malek Library, Ms. 4798	1262/1845/6	447	32x22.4	25	Afshār & Dānishpazhūh 1361kh: 441
18	Tehran, Majles Library, Ms. Fīrūz 345 (vol. 1)	1273/1856/7	696(p)	31x19	29	Ḥā’irī 2537sh: 117
19	Tehran, Majles Library, Ms. Fīrūz 346 (vol. 2/1)	1273/1856/7	696(p)	30.5x19	29	Ḥā’irī 2537sh: 118
20	Tehran, Majles Library, Ms. Fīrūz 347 (vol. 2/2)	1272 Ramaḍān 26/1856 年 5 月 31 日	243	30.5x19	25	Ḥā’irī 2537sh: 118
21	Tehran, Malek Library, Ms. 4344	1288 Jumādā II 12/1871 年 8 月 29 日	247	46.5x22.8	24	Afshār & Dānishpazhūh 1361kh: 441
22	Cambridge, Cambridge University Library, Ms. G. 16 (13) (vol. 1)	1289/1872/3	412	31.3x19.7 (22.5x12)	29	Nickolson 1932: 101–102
23	Qom, Mar’ashī Library, Ms. 13047 (vol. 1)	13/19 世紀前半	401	33.5x23 (27x15)	19	Mar’ashī 1384kh: 100–101
24	Tehran, Golestān Palace Library, Ms. 598 (vol. 1)	13/19 世紀中旬	745(p)	43.5x27.5	19	Ātābāy 2536sh: 225–227
25	Tehran, Majles Library, Ms. 3164	13/19 世紀	595	30x21	28	Ḥā’irī 1347kh: 747–748
26	Tehran, Majles Library, Ms. 4738 (vol. 1)	13/19 世紀	-	21x7	21	Afshār, Dānishpazhūh & Munzawī 1346kh: 118–119
27	Tehran, Majles Library, Ms. 4739 (vol. 2)	13/19 世紀	-	40x24	24	Afshār, Dānishpazhūh & Munzawī 1346kh: 119
28	Tehran, Malek Library, Ms. 4173	13/19 世紀	295	40.2x26.6	21	Afshār & Dānishpazhūh 1361kh: 441
29	Tehran, Tehran University Library, Ms. 5762	13/19 世紀	256	21x17 (14x10)	11	Dānishpazhūh 1357kh: 85
30	Tehran, Golestān Palace Library, Ms. 2352 (vol. 2)	13/19 世紀	808(p)	40x27.8	24	Ātābāy 2536sh: 233–234
31	Arak, ‘Abd al-Ḥusayn Bayāt Library, Ms. ? (vol. 1)	13/19 世紀	-	-	-	Dānishpazhūh & Afshār 1348kh: 79–80
32	Tehran, Majles Library, Ms. 8139	13/19 世紀	198	21.6x14.1	13	Basharī 1388kh: 261–263
33	Tehran, Majles Library, Ms. 17138	13/19 世紀	330	21.5x15	13	Nazarī 1391kh: 30
34	Tehran, Malek Library, Ms. 4173	13/19 世紀	295	40.2x26.6	21	Afshār & Dānishpazhūh 1361kh: 441
35	Tehran, Majles Library, Ms. 7669 (vol. 2)	n.d.	84	21x15	19	Ṣadrā’ī Khu’ī 1376kh: 167
36	Munich, State Library, Ms.Cod. Pers. 229	n.d.	443	34x21	27	Aumer 1866: 79–80
37	Erevan, Mashtots Institute of Ancient Manuscripts, Ms. 547	n.d.	329	40x26.5	21	Kostikyan 2017: 190

*葉数の項目において数字の後に「(p)」と記載したものは、手稿本目録で葉数ではなく頁数が記されており、かつ、実際にその葉数を確認できなかったもので、頁数であることを示している。

3. ムハンマドフサイン・イスファハーニー『歴史』(1807/8 年)

著者ムハンマドフサイン・ブン・カラムアリー・イスファハーニー Muḥammad-ḥusayn b. Karam-‘alī Iṣfahānī (1162/1748/9 あるいは 1170/1756/7 生) は、イスファハーンの商人の家に生まれた。彼は 1222/1807/8 年に、マシュハドでペルシア語普遍史書の執筆を開始した (Āqābuzurk 1983: XVIII 73; Rieu 1879: 136–137)。この著作の中には題名が記されていないため、本稿では便宜的に『歴史 *Tārīkh*』と呼ぶことにする。ただし、この

人物が 1228/1813 年に著したペルシア語の歴史書『集史 *Jāmi‘ al-Tawārīkh*』という著作の存在が記録されており (Āqābuzurk 1983: V 47)、執筆年代がややずれるものの、この著作と同一作品である可能性もある。この著作の章構成は明らかに、サファヴィー朝時代に編纂されたガッファリー *Ghaffārī* の手になるペルシア語普遍史書『世界を飾る諸書 *Nusakh-i Jahān-ārā*』(1564/5 年) を模倣したもので (Rieu 1879: 136–137)、その後に記述が付け加えられている。

『集史』は全 2 章からなるペルシア語普遍史書である。その章構成を、現存する唯一の手稿本ロンドン本 (British Library, Ms. Or. 7663) の葉数で示すと次の通りである。

「序文」(fols. 1b–5a)、「序」(fols. 5b–6b)、第 1 章 *nuskha* 「預言者」(fols. 6b–33a)、第 2 章「世界の諸王^{スルターン}と人類の諸王^{ハーキム}」(第 1 節 *ṣaḥīfa* 「前イスラーム時代の集団」(第 1 項 *ṣaḥfa* 「ペルシア人の諸王」(fols. 33b–43a)、第 2 項「非ペルシア人の諸王^{スルターン}」(fols. 43a–47a))、第 2 節「イスラーム時代の諸王^{マリク}」(第 1 項「ウマイヤ朝」(fols. 47a–48a)、第 2 項「アッバース朝」(fols. 48b–52b)、第 3 項「サイイド諸政権」(fols. 52b–64b)、第 4 項「サッフアール朝」(fols. 64b–66a)、第 5 項「サーマーン朝」(fols. 66a–69a)、第 6 項「セルジューク朝」(fols. 69a–80a)、第 7 項「アイユーブ朝」(fols. 80a–82a)、第 8 項「グールの諸王^{マリク}」(fols. 82a–84a)、第 9 項「マグリブの諸王^{スルターン}」(fols. 84a–85b)、第 10 項「アラブ人の諸王^{アミール}」(fols. 85b–86b)、第 11 項「ルームの諸王^{カイサル}」(fols. 86b–88a)、第 12 項「トルキスタンとマールワラーアンナフルの諸王^{ハーキム}」(fols. 88a–90a)、第 13 項「クルド人とロル人の諸王^{ハーキム}」(fols. 90a–92a)、第 14 項「タバリスターンとルスタムダールの諸王^{マリク}」(fols. 92a–95a)、第 15 項「周辺の諸王^{スルターン}」(fols. 95a–96b)、第 16 項「モンゴルの諸王^{スルターン}」(fols. 96b–107b)、第 17 項「ティムール朝」(fols. 107b–124b)、第 18 項「オスマン朝の諸王^{スルターン}」(fols. 125a–132b)、第 19 項「カラコユンル朝」(fols. 132b–134a)、第 20 項「アクコユンル朝」(fols. 134b–136b))、第 3 章「サファヴィー朝の諸王^{スルターン}」(「サファヴィー朝」、「アフガンの諸王^{スルターン}」、「アフシャール朝」、「ザンド朝」、「ガージャール朝」)(fols. 137a–186a)⁸、「人物伝など」(fols. 193b–220a)

⁸ 序にある目次では、第 18 項「カラコユンル朝の諸王^{スルターン}」、第 19 項「アクコユンル朝の諸王^{スルターン}」、第 20 項「サファヴィー朝の諸王^{スルターン}」、第 21 項「アフガンの諸王^{スルターン}」、第 22 項「アフシャール朝」、第 23 項「ザンド朝」、第 24 項「ガージャール朝」となっているが (fol. 4b)、この構成は内容には反映されていない。

●『歴史』の現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅（裱幅）	行数	典拠
1	London, British Library, Ms. Or. 7663	-	220	28x19 (15.2x8.4)	18	Rieu 1879: 136-137

4-1. マフムード・ミールザー『列王伝』（1830/1 年）

著者マフムード・ミールザー・ガージャール Maḥmūd Mīrzā Qājār (1799-1858 頃) は、ファトフアリー・シャーの第 15 子で、詩人や能書家として名を馳せた文人で、文芸活動を庇護したことで知られる。ここで紹介する普遍史書以外にも、詩人伝である『マフムード傑作集 *Ṣafīnat al-Maḥmūd*』（1824/5 年）など様々な分野で 20 をこえる作品を残した (Brookshaw 2006) ⁹。

彼は歴史にも興味を持っており、ラシードウッディーン Rashīd al-Dīn (1318 没) の手になるペルシア語普遍史書『集史 *Jāmi‘ al-Tawārīkh*』（1307 年）の現存する古手稿本の一つパリ本 (National Library, Ms. Suppl. persan 1113) には、1836 年と 1837 年の日付を持つ彼の書き込みがあり (fols. 3a, 229b)、蔵書の一つであったことが分かる (Richard 1997: 307)。

その王子が、父であるファトフアリー・シャーのために 1830 年に著したペルシア語普遍史書が『列王伝 *Tadhkirat al-Salāṭīn*』である。その章構成は次の通りである。

「目次」、「序」、「ピーシュダード朝」、「カヤーン朝」、「アシュカーン朝」、「サーサーン朝」、「ウマイヤ朝」、「サッフアール朝」、「サーマーン朝」、「ガズナ朝」、「グール朝」、「ブワイフ朝」、「セルジューク朝」、「ホラズムシャー朝」、「アターベク諸王朝」、「イスマーイール派」、「キルマーン・カラヒタイ朝」、「アッバース朝」、「モンゴル」、「ジャラーイル朝」、「ティムール朝」、「サファヴィー朝」、「アフシャール朝」、「ザンド朝」、「ガージャール朝」

●『列王伝』の現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅（裱幅）	行数	典拠
1	Tehran, Tehran University Library, Ms. 7415	1244 Sha‘bān 12 / 1829 年 2 月 17 日	134	21x13.5 (14.5x7.5)	13	Dānishpazhūh 1357kh: 552
2	Berlin, State Library, Ms. or. oct. 2266	1244 Sha‘bān 24 / 1829 年 2 月 29 日	125	18x12 (13x7.5)	13	Heinz 1968: 214-215
3	Tehran, Majles Library, Ms. 9472	1246 / 1830/1?	102	20x13.5	12	Hāfiziyān Bābulī 1388kh: 158
4	Tehran, National Library, Ms. F1678	13 / 19 世紀	58	34.5x21.5 (22x12.5)	17	Anwār 1371kh: 153-154
5	Tehran, National Library, Ms. F2534	13 / 19 世紀	75	27.5x19.5 (18.5x12)	15	Anwār 1379kh: 42

⁹ 『マフムード傑作集』については、校訂本が出版されている (Maḥmūd Mīrzā Qājār, *Ṣafīnat al-Maḥmūd*, ed. ‘A. Khayyāmpūr, 2 vols., Tabriz: Dānishkada-yi Adabiyāt-i Tabrīz, 1346kh)。

6	Tehran, Tehran University Library, Ms. 5846	13/19 世紀	75	30x20 (20x10)	17	Dānishpazhūh 1357kh: 105
7	Baku, Institute of Manuscripts, Ms. M235	13/19 世紀	115	27x18 (19x10.7)	14	Mamedova 2013: 162–163

* これら以外にも『マフムード全集 *Majma‘-i Maḥmūd*』に収録される形で残っているものもある (Āriyānpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh: 671)。

IV. 第3代君主ムハンマド・シャーの治世：1834–48 年

4-2. マフムード・ミールザー『ムハンマドの諸情報』(1846 年)

マフムード・ミールザー・ガージャールが『列王伝』執筆後、第3代君主ムハンマド・シャーの命令を受け、1262 年第1 ラビーウ月 30 日/1846 年 3 月 26 日に、もう一つ異なるペルシア語普遍史書を完成させた。それが、『ムハンマドの諸情報 *Akhbār-i Muḥammadī*』である。

その内容は、アダムに始まりガージャール朝時代に至るまでの歴史を対象とするものであるが、『列王伝』とは異なっており、例えば、『列王伝』には存在しない預言者ムハンマドに関するまとまった記述も確認できる。

● 『ムハンマドの諸情報』現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅(枠幅)	行数	典拠
1	Tehran, National Library, Ms. F578	1262/1845/6	92	22x17.5 (14x8.5)	18	Anwār 1369kh: 75–76
2	Tehran, National Library, Ms. F2293/2	1262/1845/6	-	22x16 (14.5x9)	14	Anwār 1365kh: 413

5. イウティダードツサルタナ『歴史の錬金術』(1842 年)

著者アリークリー・ミールザー・イウティダードツサルタナ ‘Alī-qulī Mīrẓā I’tiḍād al-Saltāna (1822–80) は、ファトフアリー・シャーの第47 子で、西欧の学問も学び、近代の学校ダールルフヌーンの校長や最初の教育大臣を務めた人物であった (Amanat 1998)。

その彼が兄弟であるムハンマド・シャーのために 1842 年に編纂したペルシア語普遍史書が『歴史の錬金術 *Iksīr al-Tawārīkh*』である。

『歴史の錬金術』は2 巻(第1 巻：ピーシュダード朝～ザンド朝、第2 巻：ガージャール朝) 全14 章構成で、その章構成は次の通りである。

第1 巻：「序文」、第1 章 *ṭabaqa* 「ピーシュダード朝」、第2 章「カヤーン朝」、第3 章「諸地方政権」、第4 章「サーサーン朝」、第5 章「4 人のカリフ (ウマル、ウスマーン、アリー、ハサン)」、第6 章「ウマイヤ朝」、第7 章「アッバース朝、アッバース朝時代の諸王朝 (①ターヒル朝、②サッフアール朝、③サーマーン朝、④ガズナ朝、⑤グール朝、⑥ブワイフ朝、⑦セルジューク朝、⑧ホラズムシャー朝、⑨

アターベク諸王朝、⑩イスマーイール派、⑪キルマーン・カラヒタイ朝、)」、第 8 章「チングス朝」、第 9 章「諸地方政権 (①チョパン朝、②ジャラーイル朝、③インジュ朝、④ムザッファル朝、⑤クルト朝、⑥サルバダール朝)」、第 10 章「ティムール朝、ティムール朝と同時代の諸王朝 (①カラコユンル朝、②アクコユンル朝)」、第 11 章「サファヴィー朝、サファヴィー朝と同時代の諸王朝 (①ウズベク諸王朝、②アフガン諸王朝)」、第 12 章「アフシャール朝」、第 13 章「ザンド朝」

第 2 巻：第 14 章「ガージャール朝 (1258/1842/3 年まで)」

第 2 巻「ガージャール史」については史料的价值が見出され、この部分の部分校訂 (‘Alī-qulī Mīrzā I’tīdād al-Salṭana, *Iksīr al-Tawārīkh*, ed. J. Kiyānfār, Tehran: Intishārāt-i Wīsmān, 1370kh) がテヘラン本 (Tehran University Library, Ms. Ḥuqūq 123b) を底本として出版されている。

●『歴史の錬金術』現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅 (梓幅)	行数	典拠
1	Tehran, Tehran University Library, Ms. Ḥuqūq 123b	1259 Safar 29 / 1843 年 3 月 31 日	326	31x19 (21x11)	20	Dānīshpazhūh 1339kh: 19–20
2	Tehran, Majles Library, Ms. Sanā 1238	1259 Dhū al-Qa‘da 4 / 1843 年 11 月 26 日	325	30x18 (21x11)	29	Dānīshpazhūh & ‘Ilmī Anwārī 1390kh: 576
3	Medina, ‘Arīf Ḥikmat Library, Ms. 493	n.d.	450	-	-	Dānīshpazhūh & Afshār 1346kh: 473

6. アブドルワッハブ・カトラ『歴史の太陽』(1844/5 年)

著者ミールザー・アブドルワッハブ・カトラ Mīrzā ‘Abd al-Wahhāb Qaṭra (生没年不詳) はイスファハーン出身の文人で、ファトフアリー・シャーの治世に詩人として頭角を現した (Riḍā-qulī Khān Hidāyat 1340kh: 886–890)。

『歴史の太陽 *Shams al-Tawārīkh*』は、彼がムハンマド・シャーの治世、1260/1844/5 年に編纂したペルシア語普遍史書で、序文、40 章、二つの跋文からなる。その章構成は次の通りである。

「序文」、序「諸預言者と諸イマーム」、第 1 章 *bāb* 「ウマイヤ朝、アッバース朝」、第 2 章「ピーシュダード朝、カヤーン朝、アシュカーン朝、サーサーン朝」、第 3 章「イエメンの諸王朝」、第 4 章「アラブ人の諸王朝」、第 5 章「イスマーイール派」、第 6 章「ターヒル朝」、第 7 章「サッフアール朝」、第 8 章「サーマーン朝」、第 9 章「ガズナ朝」、第 10 章「セルジューク朝」、第 11 章「ホラズムシャー朝」、第 12 章「キルマーン・カラヒタイ朝」、第 13 章「ムザッファル朝」、第 14 章「インジュ朝」、第 15 章「ブワイフ朝」、第 16 章「ズィヤール朝」、第 17 章「グール朝」、第

18 章「ハルジー朝」、第 19 章「シースターンの諸王」、第 20 章「クルト朝」、第 21 章「サルバダール朝」、第 22 章「アターベク諸王朝」、第 23 章「サーマーン朝の末裔」、第 24 章「アイユーブ朝」、第 25 章「ブルジー・マムルーク朝」、第 26 章「バフリー・マムルーク朝」、第 27 章「タバリスターンとルスタムダール諸王」、第 28 章「マーザンダラーンとルスタムダールの諸王」、第 29 章「ギーラーンの諸王」、第 30 章「シールワーンの諸王」、第 31 章「ズーアルカドル朝」、第 32 章「ムワッヒド朝」、第 33 章「チンギス朝」、第 34 章「ジャラーイル朝、チョパン朝」、第 35 章「ティムール朝」、第 36 章「アクコユンル朝、カラコユンル朝」、第 37 章「サファヴィー朝」、第 38 章「アフガン諸王朝」、第 39 章「アフシャール朝」、第 40 章「ザンド朝」、第 1 跋文「オスマン朝」、第 2 跋文「ガージャール朝」

●『歴史の太陽』現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅(梓幅)	行数	典拠
1	Cambridge, Cambridge University Library, Ms. G17(9)	1840 以前	210	21.8x17.5 (15.5x12)	15	Nickolson 1932: 102–103
2	Tehran, Tehran University Library, Ms. 3428	n.d.	263	23x17 (18x10)	18	Dānīshpāzūh 1340kh: 2433–2437

7. アブドルワッハブ・シーラーズィー『情報の精髓』(1841 年)

著者アブドルワッハブ・ブン・アリーアシュラフ・ブン・イスマーイール・ブン・ムハンマドマフディー・シーラーズィー ‘Abd al-Wahhāb b. ‘Alī-ashraf b. Ismā‘īl b. Muḥammad-mahdī Shīrāzī (生没年不詳) の名前は、他の史料では確認することができず、その経歴は不明である¹⁰。その彼の名前を後世に残すことになった作品が、1257 年第 2 ジュマード月 4 日／1841 年 7 月 24 日、ムハンマド・シャーのために編纂を開始したペルシア語普遍史書『情報の精髓 *Nukhbat al-Akhbār*』である。『情報の精髓』は、序文と跋文と 12 章からなり、その章構成は次の通りである。

目次 (スィヤーク体)、序文、序「天地創造」、第 1 章^{ウンワーン}「アダム」、第 2 章「諸預言者」、第 3 章「前イスラーム時代の諸王 (①ピーシュダード朝、②カヤーン朝、③諸地方政権、④サーサーン朝)、第 4 章「ムハンマド」、第 5 章「ムハンマドの家族」、第 6 章「ムハンマドと同時代の諸王」、第 7 章「ムハンマド没後の諸王、3 人のカリフ (アブー・バクル、ウマル、ウスマーン)」、第 8 章「ファーティマ、諸イマーム、

¹⁰ そのため、以下の情報は『情報の精髓』テヘラン本 (Malek Library, Ms. 4338) に記載されている情報に基づくものである。

ウマイヤ朝、アッバース朝」、第 9 章「アッバース朝と同時代の諸王（①ターヒル朝、②サッフアール朝、③サーマーン朝、④ガズナ朝、⑤グール朝、⑥ブワイフ朝、⑦セルジューク朝、⑧ホラズムシャー朝、⑨アターベク諸王朝、⑩キルマーン・カラヒタイ朝、⑪イスマーイール派）」、第 10 章「アッバース朝滅亡後のイランの諸王朝（①チングス朝、②モンゴル時代の諸地方政権）」、第 11 章「モンゴル時代の後の諸王（①ティムール朝、②ウズベクの諸王）」、第 12 章「ティムール朝の後の諸王（①サファヴィー朝、②アフガンの諸王、③サファヴィー朝末期の諸王、④アフシャール朝、⑤ザンド朝、⑥ガージャール朝）」、跋文「ムハンマド・シャー」

●『情報の精髓』現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅（梓幅）	行数	典拠
1	London, British Library, Or. 2837	1260/1844 頃	204	30.5x21 (21.7x11.5)	19	Rieu 1977: 28
2	Qom, Golpāyegānī Library, Ms. 2-1	1264/1847/8	124	32x22	-	'Arab-zāda 1378kh: 733
3	Isfahan, 'Omūmī Library, Ms. 3106	1269 Rabī' II 10/ 1853 年 1 月 21 日	260	31x20 (22x12)	27	Maqṣūd 1349kh: 164-165
4	Tehran, Tehran University Library, Ms. 5570	1271 Rabī' II 22/ 1855 年 1 月 12 日	159	31x20 (23x12)	22	Dānīshpazhūh 1357kh: 37
5	Tehran, Malek Library, Ms. 4338	13/19 世紀	200	32x20.5	19	Afshār & Dānīshpazhūh 1364kh: 815
6	Qom, Mar'ashī Library, Ms. 3594	13/19 世紀	231	30x20	19	Mar'ashī 1360kh: 375-376

V. 第 4 代君主ナーシルッディーン・シャーの治世：1848-96 年

8. アフマド・カーシャーニー『梗概』（1848/9 年）

著者ミールザー・アフマド・アディーブ・カーシャーニー *Mīrzā Aḥmad Adīb Kāshānī*（生没年不詳）は、ギヤースッディーン・アリー・シャイバーニー・カーシャーニー *Ghiyāth al-Dīn 'Alī Shaybānī Kāshānī* の息子であるハーッジー・アブー・ハサン *Hājī Abū al-Ḥasan* の息子にあたる。その先祖は、サファヴィー朝第 8 代君主スライマーン（在位 1666-94）の治世にファールス地方からカーシャーンに移り住んだとされる。彼は学識の豊かさで知られているが、1265/1848/9 年に、第 4 代君主ナーシルッディーン・シャーのために一冊のペルシア語普遍史書を編纂した（*Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz* 1362kh: 680-681）。アフマド・カーシャーニーは本書を、イランとトゥランとルームとヒンドの諸王の歴史と位置付け、『梗概 *Khulāṣa*』と呼んでいる。各項目はスィヤーク体で書かれた王名表のような形になっているが、その章構成は次の通りである。

「序文」、「ピーシュダード朝」、「カヤーン朝」、「アシュカーン朝」、「サーサーン朝」、
「ムハンマド、諸カリフ（アブー・バクル、ウマル、ウスマーン、アリー）、諸イマ

ーム」、「ウマイヤ朝」、「アッバース朝」、「イスマール派」、「ターヒル朝」、「サッファール朝」、「サーマーン朝」、「ブワイフ朝」、「ガズナ朝」、「ガズナ朝の後のインドの諸王」、「セルジューク朝」、「モスル・アターベク朝」、「ファールス・アターベク朝」、「アゼルバイジャン・アターベク朝」、「オスマン朝」、「グール朝」、「ホラズムシャー朝」、「キルマーン・カラヒタイ朝」、「クルト朝」、「モンゴルの諸王」、「チョパン朝」、「ジャラーイル朝」、「インジュー朝」、「ロレスターン・アターベク朝」、「ムザッファール朝」、「ティムール朝」、「カラコユンル朝」、「アクコユンル朝」、「サファヴィー朝（アフガンの諸王含む）」、「アフシャール朝」、「ザンド朝」、「ガージャール朝」

●『梗概』現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅（枠幅）	行数	典拠
1	Tehran, National Library, Ms. F740	1265/1848/9	34	18x11 (11x6)	14	Anwār 1369kh: 261–262
2	Tehran, Tehran University Library, Ms. 3115	14/20 世紀	47	15.5x9 (9.5x5.5)	12	Dānishpazhūh 1340kh: 2070

9-1. リダークリー・ハーン・ヒダーヤト『列王伝』（執筆年不明）

著者リダークリー・ハーン・ヒダーヤト Ridā-qulī Khān Hidāyat (1800–71) は、15 世紀の著名なペルシア語詩人カマール・フジャンディー Kamāl Khujandī (1401 没) にまで遡るとされる名家に生まれた。父ムハンマドハーディー・ハーン Muḥammad-hādī Khān (1803 没) は創設期からガージャール朝に仕えており、亡くなった時には、ファールス州知事を務めていた王子フサインアリー・ミールザー・ファルマーンファルマー Ḥusayn-‘alī Mīrzā Farmān-farmā (1835 没) の会計官を務めていた。リダークリーは成長すると、この王子のもとで行政職に就き、詩人として頭角を現し始めた。ムハンマド・シャーの治世には、君主の側近くに仕えたこともあった。また、近代的学校ダールルフスーンの初代管理者も務めた。彼は詩人としてだけではなく歴史家としても知られ、ミールハンド Mīr-khwānd (1498 没) 著『清浄園 *Rawḍat al-Ṣafā*』(1498 年) の増補版、『ナーシルの清浄園 *Rawḍat al-Ṣafā-yi Nāṣirī*』(1853–56 年) をナーシルッディーン・シャーの命令で編纂し、それは石版本の形で出版された (Losensky 2003; 岡崎 1982: 75–76)。

その彼が編纂したペルシア語普遍史書が『列王伝 *Tadhkirat al-Mulūk*』である。その章構成は次の通りである。

「前イスラーム時代の諸王（ピーシュダード朝、カヤーン朝、諸地方政権、サーサ

ーン朝)」、「ウマイヤ朝」、「サッファール朝」、「サーマーン朝」、「ガズナ朝」、「グール朝」、「ブワイフ朝」、「セルジューク朝」、「ホラズムシャー朝」、「アターベク諸王朝」、「イスマーイール派」、「キルマーン・カラヒタイ朝」、「アッバース朝」、「モンゴルの諸王」、「サファヴィー朝」、「ガージャール朝」

この作品については、全校訂 (Riḍā-qulī Khān Hidāyat, *Tadhkirat al-Mulūk*, ed. J. Nūdhārī, Tehran: Mīrāth-i Maktūb, 1399kh) が現存する唯一の手稿本ロンドン本 (School of Oriental and African Studies University of London, Ms. 35511) を底本として出版されている。

● 『列王伝』 現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅 (梓幅)	行数	典拠
1	London, School of Oriental and African Studies University of London, Ms. 35511	1255 Rabī' II /1839 年	198	-	8	SOAS University of London 1963: 48

9-2. リダークリー・ハーン・ヒダーヤト 『歴史の目録』 (1848/9 年)

また、リダークリーは、『列王伝』の他に、ヒジュラ暦 1/622/3 年から 1267/1850/1 年に至るまでを対象とする年代記形式のペルシア語普遍史書『歴史の目録 *Fihris al-Tawārīkh*』を著した。序文には、執筆時は 1265/1848/9 年であると明記されているが、その後の記事も収録されている。

この作品については、全校訂 (Riḍā-qulī Khān Hidāyat, *Fihris al-Tawārīkh*, ed. 'A. Nawā'ī & M. Muḥaddith, Tehran: Pazhūhishgāh-i 'Ulūm-i Insānī wa Muṭālī'āt-i Farhangī, 1373kh) が現存する唯一の手稿本テヘラン本 (National Library, Ms. F1588) を底本として出版されている。また、リダークリーによる「イラン人」の諸王の歴史『族書 *Nizhād-nāma*』のテヘラン本 (Majles Library, Ms. 8911) の跋文には、これとは異なる内容の年代記形式の歴史叙述が含まれている (Hakīm 1390kh: 307-308)。

● 『歴史の目録』 現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅 (梓幅)	行数	典拠
1	Tehran, National Library, Ms. F1588	1265/1848/9 年	102	24.5x21.5 (23.5x12.5)	24	Anwār 1371kh: 76-77

10. ハーディー・ヤズディー 『歴史の梗概』 (1855 年頃)

著者ハーディー・ムハンマドリダー・ブン・ムハンマドハーシム・ヤズディー al-Hādī Muḥammad-riḍā b. Muḥammad-hāshim al-Yazdī (生没年不詳) の名前は、他の史料では確認することができず、その経歴は不明である。この人物が、ヤズドとキルマーンの知事ムハンマドハサン・ハーン・ブン・ムハンマド・ハーン・マクレーー Muḥammad-ḥasan

Khān b. Muḥammad Khān Mākū'ī (1855 没) の命令で編纂したペルシア語普遍史書が『歴史の梗概 *Khulāṣat al-Tawārīkh*』(1855 年頃、マーカーイーの死後に完成) である (Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh: 684)。その形式は、簿記術で使われるスィヤーク体と呼ばれる特殊な崩し字で書かれた表形式の歴史書で、『スィヤーク体の歴史 *Tārīkh-i Siyāqī*』¹¹などと称される手稿本群の内容とよく似ている。その章構成は次の通りである。

「序」、「ペルシア人の諸王 (①ピーシュダード朝、②カヤーン朝、③諸地方政権、④サーサーン朝)」、「アラブ人の諸王 (①タミーム族、②ガッサーン族、③ヒムヤル族)」、「ムハンマドと3人のカリフ」、「12人のイマーム」、「ウマイヤ朝」、「アッバース朝」、「アッバース朝と同時代の諸王 (①ターヒル朝、②サッフアール朝、③サーマーン朝、④ガズナ朝、⑤ゲール朝、⑥ブワイフ朝、⑦セルジューク朝、⑧ホラズムシャー朝、⑨アターベク諸王朝、⑩イスマーイール派、⑪ファーティマ朝、アイユーブ朝、マムルーク朝、⑫キルマーン・カラヒタイ朝)」、「モンゴル人の諸王」、「諸地方政権 (①チョパン朝、②ジャラル朝、③インジュ朝、④ムザッファール朝、⑤クルト朝、⑥サルバダール朝)」、「ティムール朝」、「ティムール朝と同時代の者 (①カラコユンル朝、②アクコユンル朝、③ウズベク政権)」、「サファヴィー朝」、「アフガン諸王朝」、「王子であることを主張した者たち」、「ロシアの攻撃」、「トルコマーン政権」、「アフシャール朝」、「ザンド朝」、「ガージャール朝」、「執筆の経緯」、「諸驚異」

●『歴史の梗概』現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅 (梓幅)	行数	典拠
1	Tabriz, National Library, Ms. 3210/5	1274/1857/8	22	21.5x14.5	38	Yūnīsī 1348kh: 464
2	Tehran, Majles Library, Ms. 2296	1316 Ramaḍān / 1899	77	23x14	26	Nafīsī, Hā'irī & Rāstkar 1390kh: 2986
3	Qom, Mar'ashī Library, Ms. 3523	n.d.	101	22x14	-	Mar'ashī 1360kh: 321-322
4	Qom, Mar'ashī Library, Ms. 7248	n.d.	67	24.5x14	17	Mar'ashī 1369kh: 46

*タブリーズ本は、目録では、無名氏『歴史の梗概の梗概 *Khulāṣa-yi Khulāṣat al-Tawārīkh*』とされているが、冒頭と最後は『歴史の梗概』と一致する。ここでは、『歴史の梗概』の手稿本として挙げたが、別人による『歴史の梗概』の縮約版という可能性もある。

¹¹ この文献群については、大塚 (2018: 24)、Ḥusaynī (1390kh) などを参照。

11. トゥーイサルカーニー『歴史の梗概の梗概』(1857 年)

このハーディー・ヤズディーの『歴史の梗概』については、1857 年にムハンマドアーミン・ブン・ムハンマドユースフ・トゥーイサルカーニー Muḥammad-amīn b. Muḥammad-yūsuf Tūysarkānī (生没年不詳) なる人物による縮約版が存在し、これは、『歴史の梗概の梗概 *Khulāṣa-yi Khulāṣat al-Tawārīkh*』と呼ばれている。

●『歴史の梗概の梗概』現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅 (梓幅)	行数	典拠
1	Qom, Ma'šūma Shrine Library, Ms. 465	1274 Muḥarram / 1857 年	80	17x11 (11.5x6.5)	20	Ṣadrā'ī Khu'ī 1375kh: 72

12. ムハンマドタキー・スイピフル『歴史の廃棄』(1851 年)

著者ミールザー・ムハンマドタキー・ブン・ムッラー・ムハンマドアリー・カーシャーン・リサーヌルムルク・スイピフル Mīrzā Muḥammad-taqī b. Mullā Muḥammad-‘alī Kāshānī Lisān al-Mulk Sipīhr (1792/3–1880) は、カーシャーンの行政官の家に生まれた。カーシャーンで諸学を修めた後、若い頃にファトフアリー・シャーの治世に宮廷に出仕するようになり、宮廷の庇護のもとで学術活動に従事した。「王国の舌」を意味する「リサーヌルムルク」という称号は、ナーシルッディーン・シャーにより授与されたものである (Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh: 685–693; 岡崎 1982: 74–75)。

『歴史の廃棄 *Nāsikh al-Tawārīkh*』(初版は 1851 年) は、石版本で出版されたペルシア語普遍史書である。その章構成は次の通りである。

第 1 巻「アダムからムハンマドの^{ヒジュラ}聖遷 (①アダムからイエス、②イエスからムハンマドの^{ヒジュラ}聖遷)」、第 2 巻「ムハンマドの^{ヒジュラ}聖遷から第 3 代イマームのフサイン (①ムハンマド、②3 人のカリフ、③アリー、④ファーティマ、⑤ハサン、⑥フサイン)」、補遺「ガージャール朝」

さらに、彼の息子たち、アッバースクリー・ハーン・スイピフル ‘Abbās-qulī Khān Sipīhr とミールザー・ヒダーヤトッラー Mīrzā Hidāyat Allāh によって、フサイン後のイマームたちの歴史が付け加えられた。

この作品については、Muḥammad-taqī Lisān al-Mulk Sipīhr, *Nāsikh al-Tawārīkh*, ed. J. Kiyānfar, 25 vols., Tehran: Intishārāt-i Asāfīr, 1390kh など複数の全校訂が出版されている。

13. ミールザー・ムハンマドイスハーク『ナーシルの庭園』(1865/6 年)

著者ミールザー・ムハンマドイスハーク Mīrzā Muḥammad-ishāq (1818–1898) は、ム

ハンマドカーズィム・ブン・ラジャブアリー・ブン・ムハンマドフサイン・アルダビーリー Muḥammad-kāzīm b. Rajab-‘alī b. Muḥammad-ḥusayn al-Ardabīlī の息子として生まれ、「ウラマーの長 Ṣadr al-‘Ulamā」の称号で知られる人物である。この人物が、ナーシルッディーン・シャーの命令を受けて 11 年間かけて編纂し、1282/1865/6 年に完成させた天地創造に始まるペルシア語普遍史書が『ナーシルの庭園 *Riyāḍ-i Nāṣirī*』である (Āqābuzurk 1983: XI 339–340, XVIII 218–219; Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh: 694)。この普遍史書は、アーガーブズルク Āqābuzurk (1876–1970) により紹介されたが、現在その手稿本の存在は確認できず、内容は不明である。

14. ムッラーバーシー・アブドッラヒーム『歴史』(1867 年)

著者ムッラーバーシー・アブドッラヒーム Mullā-bāshī ‘Abd al-Raḥīm (生没年不詳) は、フサインアリー・ハラウィー Ḥusayn-‘alī Harawī の息子として生まれた。彼は、1839 年から 1849 年にかけて、テヘランで哲学を教授していた。その後、バーク教徒の運動に参加したため、1850 年に投獄されたが、イウティマードッサルタナに命を救われた (Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh: 694–695)。彼が著したペルシア語普遍史書については、1867 年に完成した著者直筆の第 1 巻の手稿本の存在しか確認されておらず、その全容は不明である。第 1 巻は、アダムの記事に始まりムハンマドの昇天までを含むペルシア語普遍史書である。また、題名は記されておらず、本稿では、便宜的に『歴史 *Tārīkh*』と呼ぶ。

●『歴史』現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅 (枠幅)	行数	典拠
1	Tehran, Tehran University Library, Ms. 2729	1284 Rabī‘ II 11 / 1867 年 8 月 12 日	200	30.5x20 (21.5x14)	27	Dānīshpazhūh 1340kh: 1602–1603

15. イウティマードッサルタナ『ナーシルの整えられた歴史』(1880–82 年)

著者ムハンマドハサン・ハーン・イウティマードッサルタナ Muḥammad-ḥasan Khān I‘timād al-Saltāna (1843–96) は、ガージャール朝の官吏ハーッジー・アリー・ハーン Ḥājī ‘Alī Khān (1807/8–1867) の息子としてテヘランで生まれた。父ハーッジー・アリー・ハーンは、ファトフアリー・シャーの皇太子であったアッバース・ミールザー (1833 没) に仕えた後、ムハンマド・シャーやナーシルッディーン・シャーなどのガージャール朝歴代君主のもとで要職に就いた人物である。イウティマードッサルタナは、近代の学校ダールルフヌーンを卒業後、軍人として頭角を現した。パリでの滞在経験を有し、君

主の通訳を務め、終生、側近として活躍した（Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh: 696–700; 岡崎 1982: 76–77）。

イウティマードッサルタナは数々の大部な著作を編纂したが、その中に、大部なペルシア語普遍史書が含まれている。それが、石版本の形で出版された『ナースィルの整えられた歴史 *Tārīkh-i Muntazam-i Nāsirī*』（1298–1300／1880–82）である。その内容は、『歴史の廃棄』を要約し、増補したものである。

第1巻「ヒジュラ暦元年からアッバース朝滅亡（1258年）まで」、第2巻「カリーム・ハーン・ザンドの死（1779年）まで」、第3巻「ガージャール朝史（1882年まで）」の3巻から構成される。

この作品については、全校訂（I’timād al-Saltāna, *Tārīkh-i Muntazim-i Nāsirī*, ed. M. Ismā‘īl Riḍwānī, 3 vols., Tehran: Dunyā-yi Kitāb, 1363kh）が出版されている。

16. サイフッディーン・アリー『世界を映す鏡』（1879年）

著者サイフッディーン・アリー・ブン・ムハンマドジャアファル・シャリーアトマダール Sayf al-Dīn ‘Alī b. Muḥammad Ja‘far Sharī‘at-madār（1897/8 没）は、カスピ海の南東部に位置するアスタラーバード出身だが、その後、テヘランで活躍した文人で、法学書も著している（Āqābuzurk 1983: I 51–52; Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh: 701）。

彼が著した『世界を映す鏡 *Āyīna-yi Jahān-numā*』は、1879年に編纂されたペルシア語普遍史書である。第1巻はアダムからウマイヤ朝（661–750）初代君主ムアーウィヤ（在位 661–80）の治世までを、第2巻は 60／679/80 年から 1294／1877/8 年までを対象としている。

●『世界を映す鏡』現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅（枠幅）	行数	典拠
1	Tehran, Tehran University Library, Ms. 4038 (vol. 1)	1304 Šafar 17 / 1886 年 11 月 15 日	210	22x12 (14x6)	18	Dānīshpazhūh 1340kh: 3026–3027
2	Qom, Mar‘ashī Library, Ms. 13184/1 (vol. 2)	14／20 世紀	117	15x8	17	Mar‘ashī 1384kh: 349–350

VI. 第5代君主ムザッファルッディーン・シャーの治世：1896–1907年

17. アブドルガフル『列王伝』（1896年）

著者アブドルガフル・ブン・アーガー・ムハンマド・ブン・ハーッジ・ターヒル・ブン・ハーッジ・マフディー・ヤズディー ‘Abd al-Ghafūr b. Āqā Muḥammad b. Ḥājj Ṭāhir b. Ḥājj Mahdī al-Yazdī（1898/9 没）の名前は、他の史料では確認することができず、その

経歴は不明である¹²。その彼が、1313／1895/6年に執筆を開始し、1314年初頭／1896年、ガージャール朝第5代君主ムザッファルッディーン・シャーの治世に完成させたペルシア語普遍史書が『列王伝 *Tadhkirat al-Salāṭīn*』である。その章構成は次の通りである。

「序」、「世界地誌」、「ペルシア人の諸王（①ピーシュダード朝、②カヤーン朝、③アシュカーン朝、④サーサーン朝）」、「ウマイヤ朝」、「アッバース朝」、「ターヒル朝」、「サーマーン朝」、「ガズナ朝」、「ブワイフ朝」、「イスマーイール派」、「セルジューク朝」、「アターベク諸王朝」、「ホラズムシャー朝」、「チングス・ハン」、「チングス朝」、「イランを支配したチングス・ハンの末裔」、「ムザッファル朝」、「ティムール朝」、「サファヴィー朝」、「アフシャール朝」、「ザンド朝」、「ガージャール朝」、「アダムからムハンマド」、「ムハンマド」、「ファーティマ」、「アリー」、「ハサン」、「フサイン」、「ザインヌルアービディーン」、「ムハンマドバーキル」、「ジャアファルサーディク」、「ムーサーカーズィム」、「リダー」、「ムハンマドタキー」、「アリーナキー」、「ハサンアスカリー」、「マフディー」、「過激な諸宗教」

●『列王伝』現存手稿本

	書架番号	書写年	葉数	紙幅（裱幅）	行数	典拠
1	Tehran, Majles Library, Ms. 2290	1314 Dhū al-Hijja 1／1897年5月3日（著者直筆）	476	22.5x18	19	Nafīsī, Hā'irī & Rāstkar 1390kh: 2979–2980

18. イブラーヒーム・ハーン・カーシャーニー『ムザッファルの選史』（1906年）

イブラーヒーム・ハーン・ブン・アサドッラー・シャイバーニー・カーシャーニー Ibrāhīm Khān b. Asad Allāh Shaybānī Kāshānī (1841/2–1909) は、上述のアフマド・アディーブ・カーシャーニーの孫にあたり、カーシャーンの出身で、郷里やイスファハーンで官職を得た後にテヘランに移った。その後、地方の知事を歴任するも、辞任し、その後は神秘主義教団での活動に身を投じた（Āriyanpūr, Īzādī & Kishāwarz 1362kh: 702–703）。

彼は1906年にペルシア語普遍史書『ムザッファルの選史 *Muntakhab al-Tawārīkh-i Muẓaffarī*』を書き上げ、ムザッファルッディーン・シャーに献呈した。本書は石版本で出版された。その章構成は次の通りである。

第1章「ムハンマドと諸イマーム」（①ムハンマド、②諸イマーム）、第2章「前イスラーム時代の諸王」（①ピーシュダード朝、②カヤーン朝、③諸地方政権、④

¹² そのため、以下の情報は『列王伝』テヘラン本（Majles Library, Ms. 2290）に記載されている情報に基づくものである。

サーサーン朝)、第3章「イスラーム時代の諸王 (①ムハンマド没後の諸王、②ウマイヤ朝、③アッバース朝、④アッバース朝時代のイランの諸王朝 (ターヒル朝、サッフアール朝、サーマーン朝、ガズナ朝、グール朝、ブワイフ朝、セルジューク朝、ホラズムシャー朝、アターベク諸王朝、イスマーイール派、キルマーン・カラヒタイ朝、モンゴルの諸^{パードシャー}王))」、第4章「モンゴル人の後にイランを支配した諸地方政権 (①チョパン朝、②ジャラーイル朝、③インジュー朝とムザッフアル朝、④クルト朝、⑤サルバダール朝)、カラコユンル朝とアクコユンル朝とウズベク諸王朝」、第5章「サファヴィー朝など (①サファヴィー朝、②アフシャール朝、③ザンド朝、④ガージャール朝)」

第5章第4節のガージャール史については史料的价值が見出され、この部分の部分校訂 (Mīrzā Ibrāhīm Shaybānī, *Muntakhab al-Tawārīkh*, Tehran: Intishārāt-i ‘Ilmī, 1366kh) が出版されている。

VII. 参考文献

Afshār, Ī. & M. T. Dānīshpāz hūh 1361kh: *Fihrist-i Kitāb-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Millī-yi Malik*, vol. 3, Tehran: Kitābkhāna-yi Millī-yi Malik.

----- 1364kh: *Fihrist-i Nuskhā-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Millī-yi Malik*, vol. 4, Tehran: Nashr-i Hunar.

Afshār, Ī., M. T. Dānīshpāz hūh & ‘A. Munzawī 1345kh: *Fihrist-i Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Millī*, vol. 11, Tehran: Chāpkhāna-yi Majlis.

----- 1346kh: *Fihrist-i Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Millī*, vol. 13, Tehran: Chāpkhāna-yi Majlis.

Alburz, P. 1393kh: *Naqd wa Barrasī-yi Mutūn-i Tārīkhī ba Zabān-i Fārsī*, Tehran: Kitābkhāna, Mūza wa Markaz-i Asnād-i Majlis-i Shūrā-yi Islāmī.

Amanat, A. 1998: “E‘tezād al-Saltāne,” *Encyclopædia Iranica*. (<https://www.iranicaonline.org/articles/etezad-al-saltana>, 2024年1月10日閲覧)

----- 2004: “Historiography VIII. Qajar Period,” *Encyclopædia Iranica* (<https://www.iranicaonline.org/articles/historiography-viii>, 2024年1月10日閲覧)

Anwār, ‘A. 1365kh: *Fihrist-i Nusakh-i Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Millī-yi Īrān*, vol. 5, Tehran: Kitābkhāna-yi Millī-yi Īrān.

- 1369kh: *Fihrist-i Nusakh-i Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Millī-yi Īrān*, vol. 2, Tehran: Kitābkhāna-yi Millī-yi Īrān.
- 1371kh: *Fihrist-i Nusakh-i Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Millī-yi Īrān*, vol. 4, Tehran: Kitābkhāna-yi Millī-yi Īrān.
- 1379kh: *Fihrist-i Nusakh-i Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Millī-yi Īrān*, vol. 6, Tehran: Kitābkhāna-yi Millī-yi Īrān.
- Āqābuzurk al-Ṭihirānī 1983: *al-Dharī‘a ilā Taṣānīf al-Shī‘a*, 26 vols., Beirut: Dār al-Aḍwā’.
- ‘Arab-zāda, A. 1378kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi ‘Umūmī-yi Āyat Allāh al-‘Uḏamā Gulpāyigānī*, Qom: Dār al-Qur’ān al-Karīm.
- Āriyanpūr, Y., S. Īzādī & K. Kishāwarz 1362kh: *Adabiyāt-i Fārsī bar Mabnā-yi Ta’līf-i Istūrī*, vol. 2, Tehran: Mu’assasa-yi Muṭāli‘āt wa Taḥqīqāt-i Farhangī.
- Ātābāy, B. 2536sh: *Fihrist-i Tārīkh, Safarnāma, Siyāḥatnāma, Rūznāma wa Jughrāfiyā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Salṭanatī*, Tehran: Chāpkhāna-yi Zībā.
- Aumer 1866: *Die Persischen Handschriften der K. Hof- und Staatsbibliothek in Muenchen*, Munich: In Commission der palm’schen Hofbuchhandlung.
- Basharī, J. 1388kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, vol. 27/1, Tehran: Kitābkhāna, Mūza wa Markaz-i Asnād-i Majlis-i Shūrā-yi Islāmī.
- Bockholt, Ph. 2022: *Ein Bestseller der Islamischen Vormoderne: Zur Verbreitung von Ḥʿāndamīrs Ḥabīb as-siyar von Anatolien bis auf den Indischen Subkontinent*, Wien: Österreichische Akademie der Wissenschaft.
- Bregel, Yu. E. 1972: *Persidskaia Literatura*, 3 vols., Moscow: Central Department of Oriental Literature.
- Brookshaw, D. P. 2006: “Maḥmud Mirzā,” *Encyclopædia Iranica*. (<https://www.iranicaonline.org/articles/mahmud-mirza>, 2024 年 1 月 9 日閱覽)
- Browne, E. G. 1959: *A Literary History of Persia*, vol. 4, Cambridge: Cambridge University Press.
- Dānīshpazhūh, M. T. 1339kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Dānīshkada-yi Ḥuqūq wa ‘Ulūm-i Siyāsī wa Iqtisādī-yi Dānīshgāh-i Tihirān*, Tehran: Intishārāt-i Dānīshgāh-i Tihirān.
- 1340kh: *Fihrist-i Kitābkhāna-yi Markazī-yi Dānīshgāh-i Tihirān*, vols. 10–13, Tehran: Intishārāt-i Dānīshgāh-i Tihirān.
- 1357kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Markazī wa Markaz-i Asnād-i*

- Dānishgāh-i Tihṛān*, vol. 16, Tehran: Intishārāt-i Dānishgāh-i Tihṛān.
- Dānishpazhūh, M. T. & Ī. Afshār 1346kh: *Nuskha-hā-yi Khaṭṭī*, vol. 5, Tehran: Intishārāt-i Dānishgāh-i Tihṛān.
- 1348kh: *Nuskha-hā-yi Khaṭṭī*, vol. 6, Tehran: Intishārāt-i Dānishgāh-i Tihṛān.
- Dānishpazhūh, M. T. & B. ‘Ilmī Anwārī 1390kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, vol. 1, Tehran: Kitābkhāna, Mūza wa Markaz-i Asnād-i Majlis-i Shūrā-yi Islāmī.
- Dirāyatī, M. 1391kh: *Fihristagān-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Īrān*, vol. 17, Tehran: Sāzmān-i Asnād wa Kitābkhāna-yi Millī-yi Jumhūrī-yi Īrān.
- Ḥāfiziyyān Bābulī, A. 1388kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, vol. 30, Tehran: Kitābkhāna, Mūza wa Markaz-i Asnād-i Majlis-i Shūrā-yi Islāmī.
- Ḥā’irī, ‘A. 1347kh: *Fihrist-i Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Millī*, vol. 10/2, Tehran: Chāpkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Millī.
- 2537sh: *Fihrist-i Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Millī*, vol. 21, Tehran: Chāpkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Millī.
- Ḥakīm, M. 1390kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, vols. 29/1 & 29/2, Tehran: Kitābkhāna, Mūza wa Markaz-i Asnād-i Majlis-i Shūrā-yi Islāmī.
- Heinz, W. 1968: *Verzeichnis der Orientalischen Handschriften in Deutschland*, vol. 14/1, Wiesbaden: Franz Steiner Verlag GmbH.
- Ḥusaynī, M. 1390kh: “Tārīkh-i Siyāqī yā Tārīkh-i Pādshāhān-i ‘Ajam,” *Payām-i Bahāristān*, 2/4/14, pp. 1178–1187.
- Ḥusaynī Ishkiwarī, A. 1380kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Markaz-i Ihya-yi Mīrāth-i Islāmī*, vol. 2, Qom: Markaz-i Ihya-yi Islāmī.
- Kondo, N. 2019: “How to Find a New Dynasty: The Early Qajar’s Quest for Legitimacy,” *Journal of Persianate Studies*, 12/2, pp. 261–287.
- Kostikyan, K. P. 2017: *Catalogue of Persian Manuscripts in the Matenadaran*, Yerevan: Nairi.
- Losensky, P. 2003: “Hedāyat, Rezaqoli Khan,” *Encyclopædia Iranica*. (<https://www.iranicaonline.org/articles/hedayat-rezaqoli-khan>, 1 月 10 日 閱覽)
- Mamedova, R. M. 2013: *Fars Əlyazmaları Kataloqu*, Baku: Elm və Təhsil.
- Maqṣūd, J. 1349kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi ‘Umūmī-yi Iṣfahān*, vol. 1,

- Tehran: Wizārat-i Farhang wa Hunar.
- Mar‘ashī, M. 1360kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi ‘Umūmī-yi Ḥaḍrat-i Āyat Allāh al-‘Uḏamā Najafī Mar‘ashī*, vol. 9, Qom: Chāp-i Khayyām.
- 1369kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi ‘Umūmī-yi Ḥaḍrat-i Āyat Allāh al-‘Uḏamā Najafī Mar‘ashī*, vol. 19, Qom: Kitābkhāna-yi Āyat Allāh Mar‘ashī.
- 1384kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Buzurg-i Ḥaḍrat-i Āyat Allāh al-‘Uḏamā Mar‘ashī Najafī*, vol. 33, Qom: Kitābkhāna-yi Buzurg-i Ḥaḍrat-i Āyat Allāh al-‘Uḏamā Mar‘ashī Najafī.
- Melville, Ch. (ed.) 2012: *Persian Historiography*, London & New York: I.B. Tauris.
- Nafīsī, S., ‘A. Ḥā’irī & E. Rāstkār 1390kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, vol. 4, Tehran: Kitābkhāna, Mūza wa Markaz-i Asnād-i Majlis-i Shūrā-yi Islāmī.
- Naqībzāda, Ḥ., Y. I’tisāmī, Ibn Yūsuf Shīrāzī & ‘A. Ḥā’irī 1390kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, vol. 2, Tehran: Kitābkhāna, Mūza wa Markaz-i Asnād-i Majlis-i Shūrā-yi Islāmī.
- Nazarī, M. 1391kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, vol. 47/2, Tehran: Kitābkhāna, Mūza wa Markaz-i Asnād-i Majlis-i Shūrā-yi Islāmī.
- Nickolson. R. A. 1932: *A Descriptive Catalogue of the Oriental Mss. Belonging to the Late E. G. Browne*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Qadīmī Qaydārī, ‘A. 1393kh: *Tadāwum wa Taḥawwul-i Tārīkh-niwīsī dar Īrān-i ‘Aṣr-i Qājār*, Tehran: Pazhūhishgāh-i Tārīkh-i Islām.
- Quinn, Sh. A. 2021: *Persian Historiography across Empires: The Ottomans, Safavids, and Mughals*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Richard, F. 1997: “Un des peintres du manuscrit Supplément persan 1113 de l’histoire des mongols de Rašīd al-Dīn identifié,” in D. Aigle (ed.), *L’Iran face à la domination mongole*, Tehran: Institut français de recherche en Iran, pp. 307–320.
- Riḍā-qulī Khān Hidāyat 1340kh: *Majma‘ al-Fuṣaḥā*, ed. M. Muṣaffā, vol. 5, Tehran: Amīr-i Kabīr.
- Rieu, Ch. 1879: *Catalogue of the Persian Manuscripts in the British Museum*, vol. 1, London: Trustees of the British Museum.
- 1977: *Supplement to the Catalogue of the Persian Manuscripts in the British Museum*

- (Now in the British Library), London: British Library Publications Limited.
- Şadrā-ī Khu'ī, 'A. 1375kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitābkhāna-yi Āstāna-yi Muqaddasa-yi Ḥaḍrat-i Ma'sūma-yi Qum*, vol. 2, Qum: Zā'ir.
- 1376kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, vol. 26, Tehran: Kitābkhāna, Mūza wa Markaz-i Asnād-i Majlis-i Shūrā-yi Islāmī.
- SOAS University of London 1963: *Library Catalogue*, vol. 22: *Catalogue of Manuscripts and Microfilms*, Boston, MA: G. K. Hall & Co.
- Tawakkulī, M. 1387kh: "Muqaddima," in Mullā Muḥammad Sharīf Qāḍī, *Zubdat al-Tawārīkh-i Sanandajī dar Kurdistān*, ed. M. Tawakkulī, Tehran: Intishārāt-i Tawakkulī, pp. 7–9.
- Tavakoli-Targhi, M. 2009: "Historiography and Crafting Iranian National Identity," in T. Atabaki (ed.), *Iran in the 20th Century: Historiography and Political Culture*, London & New York: I.B. Tauris, pp. 5–21.
- Yūnisī, M. 1348kh: *Fihrist-i Kitābkhāna-yi Millī-yi Tabrīz*, vol. 1, Tabriz: Intishārāt-i Kitābkhāna-yi Millī-yi Tabrīz.
- 大塚修 2017: 『普遍史の変貌：ペルシア語文化圏における形成と展開』名古屋大学出版会。
- 2018: 「写本が伝える世界認識」『情報がつなぐ世界史』（MINERVA 世界史叢書 6）ミネルヴァ書房、9–28 頁。
- 岡崎正孝 1982: 「カージャール朝史ペルシア語史料解題」『オリエント』25/2、74-87 頁。
- 黒柳恒男 2022: 『増補新版 ペルシア文芸思潮』東京外国語大学出版会。
- 近藤信彰 2023: 「近代イランにおけるテュルク的過去の参照」野田仁（編）『近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、107–120 頁。
- 真下裕之 2011: 「インド・イスラーム社会の歴史書における「インド史」について」『神戸大学文学部紀要』38、51–107 頁。
- 守川知子 2010: 「「イラン史」の誕生」『歴史学研究』863、12–21 頁。